

活動趣旨




全国的にも日本産純淡水魚は、水質汚濁や護岸整備などによる環境改変に加えて、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚放流により近年著しく減少し、淡水・汽水に生きる魚類の42%が危機的状況にあります。一方、近年の環境意識の高まりにより淡水魚をはじめとする水生生物にやさしい河川づくりが進められています。河川へ関心を高め、淡水魚が生息しやすい環境の保全・再生、淡水魚や水生生物と身近に親しむことができる社会の実現のためには、一般市民に淡水魚の置かれた状況を広く知って頂くことが必要です。そのために、土器川・香東川・綾川における水生生物の調査を実施することに加えて、水生生物への負荷を高めない形で太田中央公園せせらぎ水路にて観察会を実施し、豊かで潤いのある河川環境の保全と豊かで潤いの河川の創造を担う人材の育成を目指しました。

(共催) 香川県立高松桜井高等学校理学部

水生生物調査

生態系にやさしい河川づくりに役立ててもらうために、土器川・香東川・綾川水系の水生生物調査を実施し、各河川での水生生物の生息状況を香川県などに提供しました。今年度は絶滅が危惧されるアカザについて重点的に調査し、「香川県中東讃部におけるアカザ調査の記録」として香川生物学会で発表しました。同論文は、第50号香川生物学会誌に収録されます。

水生生物調査で確認できた淡水魚類




	土器川水系	香東川水系	綾川水系	淡水魚類写真
ニホンウナギ				
コイ (飼育型)	○	○	○	
ギンブナ	○	○		


ヤリタナゴ				
アブラボテ	○			
オイカワ	○	○		
カワムツ	○	○	○	
タカハヤ	○	○	○	
ムギツク	○	○	○	

タモロコ		○		
カマツカ		○		
イトモロコ		○		
コウライモロコ		○		
ドジョウ		○		
オオシマドジョウ	○	○	○	
チュウガタスジシマドジョウ		○		
ナガレホトケドジョウ				

ギギ	○	○		
アユ		○		
ナマズ				
アカザ	○	○	○	
ミナミメダカ	○	○	○	
オヤニラミ	○			
ブルーギル		○		

オオクチバス	○			
カジカ大卵型		○		
ドンコ	○	○	○	
カワアナゴ				
ヌマチチブ	○	○		
チチブ	○			
ゴクラクハゼ				

シマヨシノボリ				
オオヨシノボリ	○			
クロヨシノボリ				
カワヨシノボリ	○	○	○	
シマヒレヨシノボリ		○		
トウヨシノボリ	○			
ウキゴリ				
スミウキゴリ				

カムルチー		○	
-------	--	---	---

淡水魚類の詳しい説明は、
香川淡水魚研究会公式サイト https://kfish.sakura.ne.jp/?page_id=451
にあります。

観察会

生息調査で得られた結果をもとに、絶滅の恐れがあり太田中央公園せせらぎ水路で保全が可能な水生生物については、地域住民と協働して生息域外保全に取り組んでいます。子ども達たちと観察会を行うことによって、生きものと直にふれあう機会を提供し、実体験からしか得られない生命の感動を伝えました。

・観察会実施日

令和4年

8月21日（日） 観察学習会 一般参加者 36名

・参加した子ども達から

「せせらぎ水路の魚が、実は希少な種だったことを初めて知った」

「よく池などで見かけるおおきなコイが、外来種ということを知って驚いた」

「捕った魚の名前を言い当てられたのがうれしかった」

・参加した保護者の方から

「子どもに淡水魚と触れ合うような経験をさせることができよかった」

「説明を聞いたことで、自分も淡水魚について知ることができてよかった」



